

日本、「いわば第二の国」

オズデミル・メルウェ ス (トルコ・アンカラ大学)

私は、トルコのアンカラ大学から来た 2018 年 10 月から 2019 年 9 月までの交換留学生オズデミル・スです。日本で過ごした大事な 1 年間の後、そろそろ帰国する時間が近づいてきました。1 年間というと、長い時間だという気がするけれども、実際に一年間を過ごしてみると、とても短い時間のような感じがします。

日本で過ごしたこの 1 年は、私の今までの人生において一番成長した時期です。トルコで大学に入ってから日本語に対する興味を深め日本語の能力を上達させたいと思い、ずっと頭の中で留学しなければならないと考えるようになりました。つらい努力が実って、交換留学生になってお茶の水女子大学に留学することができましたが、来日したばかりの頃は、様々な手続きや新しい環境の影響で大変困りました。なぜなら、いつも家族のサポートで生活していた私は、一人で何でも自分でやるようになったからです。お茶の水女子大学で言語の勉強を通して、コツコツ積み重ねていくことの大切さを理解しました。それに、日本で初めてアルバイトをして本当の世界と日本社会を理解する機会になりました。そのため、あまり自立精神のなかった私は、前と全然違います。

先生方、チューターさん、指導教員の先生や大切な友達のおかげで学生生活や日常生活にすぐ慣れることができました。先生方皆様に心から感謝しておりますが、特に前期も後期も授業を受けた先生である菅生先生とマツダ先生には特別な感謝の気持ちでいっぱいです。授業のことだけではなく、授業以外にも色々優しくサポートしてくれて本当にありがとうございました。他の大学と比べたらお茶の水女子大学は少し厳しく感じて、困ったこともありました。今までの留学の過程で気づいたのは、学校が大変忙しく課題などが多かった時は諦めようと思うほど困りましたが、一生懸命頑張って努力することで、日本語を以前と比べると上達させることができたということ、また、どんな成功の裏側にも必ず努力や苦労があるということです。また、お茶大は学生を家族のように大切にされているので、それは自分にとってうれしいことでした。

日本でもう 1 年を過ごしましたが、時間がこんなに早いと思いませんでした。来日して、今までのことを振り返ってみると、つらいことやうれしいこともありました。最初の頃は、誰も知らずにいつも心の中で友達ができるかどうかを心配しすぎていました。皆は自分の国からの留学生の友達がいる、いつも一緒に時間を過ごしたので、私にとってそれはうらやましいことでした。その理由は、お茶大で自分だけがトルコ人でちょっと寂しい感じでしたが、自分が寂しいと考える代わりに他人と仲良くしたいと思って接したら寂しさが消えると考え方を変えて周りのみんなと様々な忘れられない思い出を作ることができました。

また、それらすべてが、日本に留学したからこそできた重要な経験だと思います。今後の目標は、帰国して卒論を書いて、日本で得たものの上にどんどん重ねて自分の道を見つけることです。みなさん、今までありがとうございました。



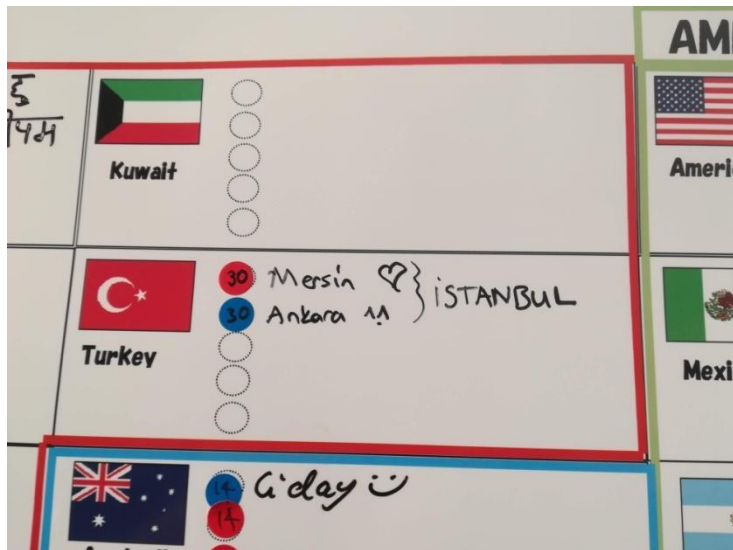
松島—宮城県 2019年5月4日

日本三景である松島にいたとき初めてかき氷を食べて、かき氷を愛しています。





平泉、岩手県 2019 年 3 日春の藤原祭り、行列



2019 年 4 月 30 日
 田村市 福島県

福嶋の旅の時行ったあぶくま洞に初めて来たトルコ人は私で、出身地であるメルスィンと普段住んでいる首都のアンカラを書いてスタンプを付けました。とても楽しかったです。



2019年7月25日、お茶の水女子大学

一番好きなナンブンちゃん、ハスマちゃんと一緒に最後の写真です。出会えてよかったです。また、どこかで会うように願っています。